



## トラックの特性（2）

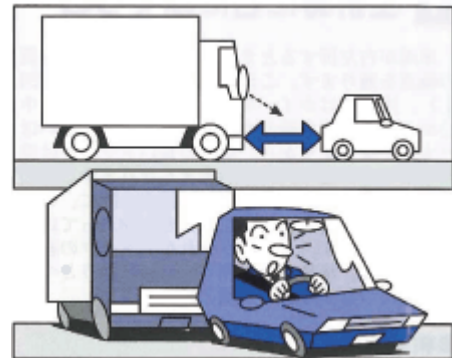
先月に引き続き、乗用車を運転するドライバーが事故を防止するために知っておくべき「トラックの特徴」について解説します。

＝車高と運転特性＝

**運転席が高いトラックは視界が違う**

### 1. 路面がよく見えるため車間距離をつめやすい

トラックは運転席が高くボンネットがないため、ドライバーは前方を見下ろすような形になり、路面がかなり手前までよく見えます。そのため前車との車間距離を長く感じやすく、知らず知らずのうちに車間距離をつめて走ることがあります。



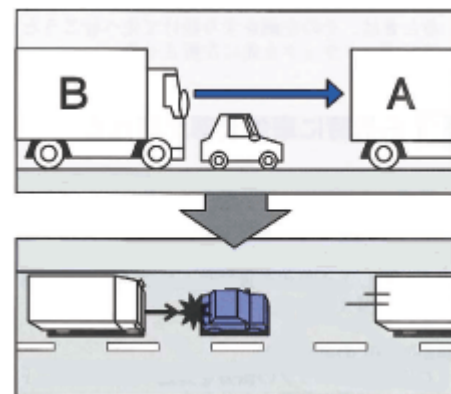
#### ■事故防止のポイント

- ・後方からトラックが接近してきたときは、進路変更などをしてトラックを先に行かせる。
- ・軽くブレーキを踏むなどして後方のトラックに異常接近を警告する。

### 2. 直前の乗用車を見落としやすい

トラックは前方の状況もよく見えますが、一方で、直前を走行している乗用車に対する注意を欠いてしまうことがあります。たとえば図1のように乗用車の前をトラックAが走行していると、トラックBのドライバーは直前の乗用車ではなく、トラックAを見ながら運転し、トラックAがスピードを上げるとトラックBもスピードを上げ、その結果、乗用車に追突してしまうというケースもあります。

図1



#### ■事故防止のポイント

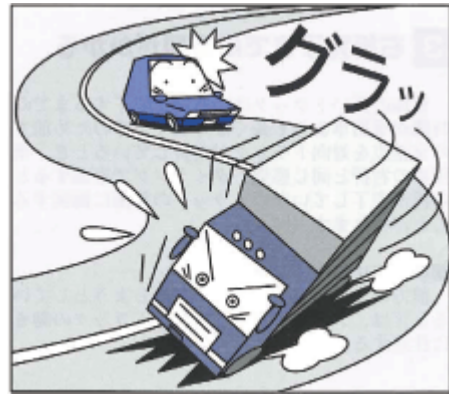
- ・トラックの間にはさまれたら、できるだけ早く抜け出す。
- ・抜け出せないときは、ときどき軽くブレーキを踏むなどして後方のトラックに自車の存在を知らせる。

### 3. 横転や荷崩れを起こすことがある

トラックは車高が高いため重心が高くなっています。そのため、遠心力が作用するカーブなどでは横転したり、ロープなどで積荷を固定しているトラックの場合には荷崩れを起こすことがあります。特にハンドルを切り返すS字カーブでは、横転や荷崩れを起こしやすくなります。

#### ■事故防止のポイント

- ・トラックの後方を走行するときは、車間距離をできるだけ長く取る。
- ・不安定な積み方をしているトラックや重量物を積載しているトラックは、早めに安全な場所で追越すなどして後方を追従しない。



ドライバーはトラックの特性を十分理解し、無理のない安全運転を心がけましょう。

(2009年10月作成)